

稲作管理情報 第6号 コシヒカリの活力維持 特集

適切な穂肥と水管理で稲体の活力維持を図りましょう!!

1 コシヒカリの穂肥 ~適切な穂肥施用で倒伏や品質低下防止~

今年のコシヒカリの幼穂形成期(幼穂長2mm)は、ほ場間差がありますが近年並の7月12日頃と推測されます。

コシヒカリの幼穂形成期と出穂期の予想

田植日	幼穂形成期	出穂期
5月12日	7月12日頃	8月3日頃

(1) 肥効調節型(基肥一発)肥料を使用している場合

- ・安易な追肥は控えましょう。
- ・出穂7日前(7月27日頃)に表1のように葉色が薄い場合は、出穂の3日前までに追加穂肥を施用し、稲体の充実を図りましょう。

表1 追肥が必要と判断される葉色

水田の立地	追肥が必要となる葉色	施用量(10a当たり)
砂壤土や秋落ちする水田	4.2未満	<u>メルヘン3号</u> 5~7kg
小矢部川西岸等の肥沃田	4.0未満	

(2) 分施肥体系の場合

- ・1回目穂肥施用時(幼穂長15mm頃)は、5月12日田植えほ場で7月20日頃からと予想されます。
- ・穂肥は、表2のように①幼穂長、②草丈・茎数、③葉色など稲の姿を確認してメルヘン3号を施用しましょう。

表2 生育状態別の穂肥施用の目安(コシヒカリ)

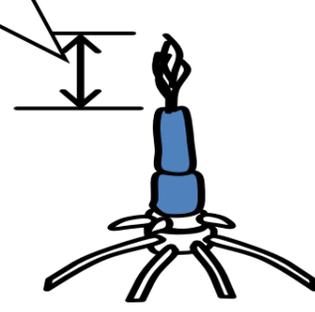
稲の姿		ガッチリ	ややメラつく	メラつく
らち間		すっきり見える	やや見える	見えない
草丈		82cm以下	85cm程度	85cm超
株当り茎数	70株植	21本以下	23本程度	25本超
	60株植	24本以下	25本程度	28本超
葉色		3.6	3.7	3.8以上

1回目穂肥	施用時期	幼穂長15mm(7/20頃)		施用しない	
	施用量	10kg/10a	7kg/10a		
2回目穂肥	施用時期	1回目の7日後(7/27頃)		幼穂長10cm(幼穂形成期から約14日後)(7/26頃)	
	施用量	埴壤土	13kg/10a		
		壤土	14kg/10a		
		砂壤土	15kg/10a		

1回目の穂肥は慎重に(倒伏回避)、2回目は确实(後期栄養凋落防止)に施用しましょう!

葉鞘をはぎ、幼穂を確認。⇒幼穂が15mmの時期に1回目穂肥を施用します



※2回目の穂肥後も葉色が薄い場合は、7月31日頃までにメルヘン3号で5~7kg/10a追肥しましょう。

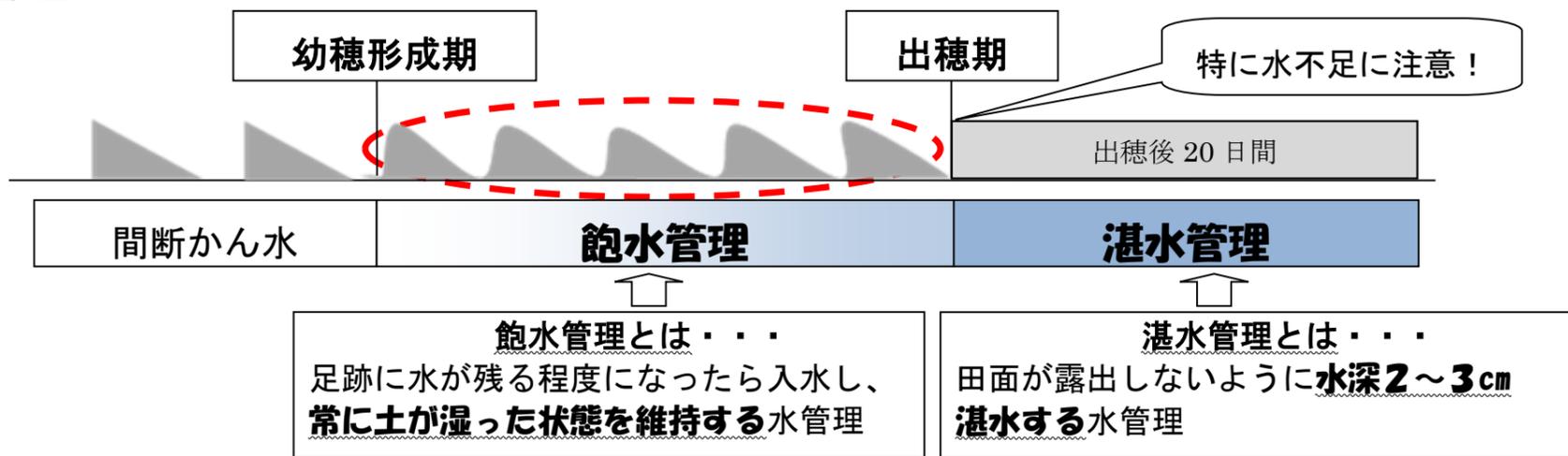
2 早生(てんたかく)の追加穂肥

現在の葉色が4.0以下の場合、直ちに(出穂前まで)メルヘン3号で7kg/10a(N成分:1kg/10a)程度の追肥を行いましょう。

### 3 幼穂形成期～出穂後の水管理

- ①幼穂形成期～出穂期まで土壌を湿潤に保つ（＝飽水管理）
- ②出穂後20日間は、湛水管理（田面を露出させない）

〈水管理のイメージ〉



### 4 病害虫防除 ～カメムシ防除で品質確保～

- ・斑点米の原因となるカメムシが多発しています。基本防除を確実に実施しましょう。
- ・畦畔の草刈りは、雑草の穂が出ないよう継続して行いましょう。
- ・穂の出ている雑草を刈る場合は、本田基本防除の直前に行いましょう。

今年も多くの場所で発生しています！



アカヒゲホソミドリ  
カスミカメ

アカスジ  
カスミカメ

〈防除時期の目安〉

#### 【粉剤・液剤の場合】

区 分	穂揃期（1回目）	傾穂期（2回目） 1回目の7日後
粉剤対応	[キラップ粉剤DL] 4kg/10a	[スタークル粉剤DL] 3kg/10a
液剤対応	[キラップフロアブル] 75ml/10a (2,000倍) 散布量：150ℓ/10a	[スタークル液剤10] 150ml/10a (1,000倍) 散布量：150ℓ/10a
<b>てんたかく</b> 【出穂期予想：7月15日頃】	7月18～19日頃（穂揃期）	7月25～26日頃（傾穂期）
<b>コシヒカリ</b> 【出穂期予想：8月3日頃】	8月6日頃（穂揃期）	8月13日頃（傾穂期）

#### 【粒剤の場合】

防除時期：出穂3日前  
[キラップ粒剤]  
3kg/10a

#### 【散布方法】

- ・湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布し、7日間は湛水を保つ。
- ・田面を露出させず、落水及びかけ流しをしない。

※今年のカメムシが多発しています。今後、早生ほ場で籾割注意報等が発表された場合は3回目の防除を実施する場合があります。

### 5 クサネムの除去

クサネムは収穫前に抜き取り、種子の混入を防ぎましょう。